

■北海道科学大が14年ぶりに1部復帰。道学生選手権最終節

第51回北海道学生アメリカンフットボール選手権は最終節の10月26日、札幌学院大グラウンドで1、2部入れ替え戦を行い、北海道科学大（2部1位）が14-6で東京農業大（1部6位）を下し、北海道工業大時代の2012年以来14年ぶりの1部復帰を決めた。東京農業大は3年ぶりの2部降格。

試合は北海道科学大が第2Q7分、ワイルドキャット陣形でスナップを受けたRB浅木晶斗（4年）が左オフタックルを突く6ヤードランで先制。2分後にはRB竹内連（3年）がダイブで45ヤードを走り切り14-0とリードを広げた。東京農業大は第3Q4分、QB関叶翔（3年）からWR木村拓海（4年）への16ヤードTDパスで14-6と追いつけたが、その後は要所でパスをインターセプトされるなど、北海道科学大の守備に反撃を封じられた。



北海道科学大の土屋竜馬HCは「ラインがきちんと仕事をしたのが勝因。絶対に出したいところでゲインでき、絶対に出させたくないところではインターセプトできた」と快勝を振り返り、14年ぶりとなる来季の1部挑戦については「上級生は信頼している。1年生の底上げをして臨みたい」とチーム力アップを決意していた。先制TDに加え、DEの守備でもQBサックと活躍したR

B浅木は「先制点は、みんなのきれいなブロックが見え、自信満々でT Dが取れた。最後にR Bとしていいところを見せられた。僕らの代で1部昇格を決められて良かった」と笑顔をはじけさせた。

東京農業大の神田健心コーチは「選手たちは全力を出したが、実力不足だった」と巻き返しを誓っていた。

(広報委員 塚田博)